

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成30年11月28日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870102153
事業所名	グループホーム御幸の杜
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏 名	新田 智加
自己評価作成日	平成30年 10 月 1 日

【事業所理念】 1.入居者に対しては、常に一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬い家庭的な環境の下、有する能力に応じた日常生活が送れるように努めます。 2.職員は、自分の仕事に誇りを持ち、「家訓」の実践に工夫と反省を心掛けて、「自分や家族が入居したいと思う」職場作りに努めます。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 1地域の行事に参加し、利用者の顔を知って頂き、職員が間に入り話しやすい環境を作る。また行事にも気軽に参加していただけるように声をかける。納涼祭・地域の行事に参加する。納涼祭に参加していただけるように地域の方に案内を送付する。○町内の方にボランティアに月2回来ていただき、入居者様と昔話・歌・紙芝居などのレクリエーションを行い交流を深めている。地域の行事に関しては秋まつりに神興(子供みこし)にていただき、地域の方ともコミュニケーションを図ることができている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 静かな住宅地の中にあり、川沿いののどかな風景の中の散歩を楽しんでいる。利用者の高齢化や重度化により、限られた人員配置での支援は厳しい状況でもあるが、利用者を主体とした対応に努めている。若い職員を中心とした職員の団結力は頼もしく、利用者の立場、視点に立った支援を考えている事業所である。
--	---	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	利用者の方の希望をきき、プランにもりこんでいる。一人ひとりにあった生活を送れるようにしている。	◎		◎	日頃の会話から、利用者の意向を聞き取るように努めている。把握した情報はミーティングで共有し、介護支援専門員に報告し、介護計画へとつなげている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	スタッフで話し合い、その人にあった支援ができるよう色んな角度からの支援を行っている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族の方が来られた時は近況をお話しし、情報を共有をするようにしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	申し送りノートを使うことでスタッフ全員が情報を共有するようにしている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	定期ミーティングでそれぞれが意見を出し合い本人の思いを大事にした支援を行うようにしている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	一人ひとりの個人ファイルを作り、これまでの状況を確認できるようにしており、また家族の方にもお会いした時にお話を聞いている。			◎	家族には入居時や面会時に、家庭での様子や若い頃の話等を聞いたり、これまで利用してきたサービス事業者から情報を得たりして個人ファイルにまとめている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	ささいな事でも、スタッフ同士で共有するようにし、その方の現状の把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	色んな角度から支援を行うことで、その方が一番安心できることを把握するようにしている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	支援を通して何か改善点はないかミーティングでの話し合いを通して解決に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の変化や違いも記録に記載し、スタッフが把握できるようにしている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	実際に本人から何を求めているかを確認し、本人の視点で検討するようにしている。			○	利用者や家族から聞き取った内容を踏まえ、ミーティングや毎日の申し送りで情報を共有し、利用者が求めていることや必要としていることを検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人にとって良い暮らしを送るためにはどうしたらいいかを本人、スタッフで話し合い検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題を明らかにし、よりよく暮らせるよう支援を行っている。				

愛媛県グループホーム御幸の杜

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ミーティングなどで話し合い、その人にあったプランになるようにしている。				ミーティングを開催し、職員が把握した情報を介護計画に活かせるよう、職員間で意見を出し合っている。利用者の思いを実現するための方法を検討しており、職員からはアイデアがよく出されている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	意見をスタッフ間で話し合い、一人ひとりの考え、アイデアをとりいれている。	◎		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者の方が受け身にならないようプランの内容を考えている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	施設内で行うプランが多く、なかなか地域との協力体制が難しい。				
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ミーティングなどで、介護計画を確認し、共有するようにしている。			○	個別ファイルに介護計画を挟みこんで、利用者毎の計画内容の共有・理解につなげている。介護計画に沿った実践の記録には印を付け、モニタリング時にもチェック漏れがないように工夫している。実践できなかった時は深い理解へとつなげるため、どんな様子であったかなど具体的な記録が望まれる。利用者の細やかな様子や気づきを記録できる職員もいるが、全職員が同様に記録のスキルが高まることに期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	プランを実践した時は介護記録に記入するようにしている。日々の対応に応じた支援を行っている。			△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別に記録に記入し、具体的内容を残すようにしている。			△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	こうしたらいいと思うことを実施し、それを個別に記録している。			△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	ミーティングで話し合い介護計画を定期的に見直している。			◎	基本的には6か月で見直しを行っているが、毎月開催するミーティングで利用者の状態を一人ずつ丁寧に確認している。利用者の状態に変化が生じた場合には、随時見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月月1回ミーティングを行うことで、現状確認を行っている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化があった時は、見直しを行い、その人にあった計画を作成している。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	ミーティング以外では、申し送りをきちんと行いスタッフ間で課題の解決を行う。			○	チームケアのための会議として、月2回ミーティングを開催しており、緊急案件があれば毎日の申し送りで必要な相談や検討を行っている。ミーティングに参加できなかった職員は会議録を回覧して情報を共有し、サインや押印で確認状況も把握している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	全員が気づいたことを発言していき、意見交換を行っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	多くの職員が参加できるようにし、欠席した職員にも内容を伝えるようにしている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録をとり、欠席した職員にも確認できるようにしている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートを活用し、情報を共有できるようにしている。			◎	家族からの連絡事項などのやり取りや重要な情報は、申し送りノートに記載し、出勤時に確認し共有する仕組みになっている。またサインや押印で確認状況を把握している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りなどで重要な情報はきちんと伝わるようにしてる。	◎			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	その人にあった支援を日々実践している。				生活の場面では、その都度利用者の希望をうかがい、意向に沿った支援に努めている。職員は年齢層が幅広く、それぞれの良さを認め合いながら、声かけの方法を学び、状況によっては声かけの時間をずらしたり、職員を代えてみたりしながら、利用者の思いや希望が引き出せるように支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	利用者の方が自己決定できるよう支援している。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	どのような支援がその人にあるかを話し合い、支援をしている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	職員間で協力し合い、一人ひとりにあった支援を行うようにしている。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者の方が過ごしやすい空間を作れるよう支援している。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	目の動きや、ささいな変化を確認し、その方にあった暮らしができるよう支援している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	利用者の方のプライバシーに配慮し、言葉かけや態度も意識して支援している。	◎	○	○	プライバシーや利用者の誇りに配慮した対応を意識しており、人権や尊重について学びの機会を設けている。調査時には利用者に丁寧な口調で声かけをしていた。居室への入退室についても、ノックや利用者への声かけを徹底する等して、配慮に努めている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	その時に応じた声掛け、支援を意識して対応している。			◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	プライバシーに配慮しながら支援を行っている。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に出入りするときは、ノック、もしくは声掛けをしてから入室するようにしている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	それぞれが個人情報を意識し、理解している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	教えてもらうことでその方に自信を持っていただき、信頼関係につなげている。				多くの時間を共にするリビングでは、利用者の症状や相性を考慮して配席を工夫している。他利用者の様子が気になってしまう利用者には、相性の良い利用者の力も借りて、席替えを行うことで和やかな雰囲気へと改善したケースがある。トラブルになりそうな場面でも、職員が間に入ってコミュニケーションをとりながら、穏やかに過ごしてもらえよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	スタッフが間に入り、利用者様同士がコミュニケーションをとりやすいよう支援している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	席の配置やトラブルが起きそうな時は、スタッフが間に入り、利用者同士が楽しめる空間作りを心掛けている。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルが起きた時は、スタッフ間で話し合い、解決に努めている。				

愛媛県グループホーム御幸の杜

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	家族様やご本人からお話を聞いて把握できている面もある。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	実際にその場にお連れすることもありなつかしさなどを味わって頂いている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	友人の方の訪問していただいたり、お電話などでお話する機会を作っている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	どの時間でもお会いしていただいている。週末は面会に来られる方も多い。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	×	即時に対応できていない。予定を立て外出していただいている。軽い散歩、日光浴等はその日に実施している。	△	◎	△	事業所周辺道路は、朝夕の通勤時間帯以外は車も少ないため、日常的に散歩に出かけている。地域の方から散歩途中に声をかけてもらうことも多い。気候の悪い時期や重度の利用者は、敷地内で日光浴をしながらお茶を飲むなど、外気に触れる機会を持って気分転換を図っている。利用者の重度化が進み、皆で揃って出かけることが難しくなっており、管理者や職員も課題であると感じている。職員から個別外出支援のアイデアが出ており、その取組みに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	外出支援は職員が行っている。月2回ボランティアさんとの交流をしている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	庭で日光浴をしたり散歩に行くようにしている。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	月に数回外出支援を行ったり、家族様同行にて近所のカフェを利用している方もいらっしゃる。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	できるだけ、日々の様子について観察し、改善できるよう話し合っている。事故対策、危険予測についてあらかじめ話し合うようにしている。				難病の利用者は、個別に訪問看護ステーションでリハビリテーションを受けている。職員も病状について理解を深めるため、看護師から助言をもらっている。利用者ができることは時間がかかってもできるだけ自分でできるように支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	ケアの中ではやめに気づき、一人ひとりに合った対応、バイタル管理は怠らずに把握し取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	◎	見守りは行うが、出来ることは利用者様のペースでしてもらっている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	アセスメントをとり、また見直しして毎月のミーティングやカンファレンスで確認して共有できている。				職員が、一緒にしませんかと声をかけることもあるが、利用者が自主的に家事をしてくれることが多い。ボランティアが定期的に訪問し、歌や紙芝居の他、ゲーム等のレクリエーションを楽しんでいる。利用者の状態により楽しめるゲームに差が出るため、ボランティアと職員は打ち合わせの時間を持つようにしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	出来る方には洗濯ものたたみや園芸・創作活動をしていただいている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	月に2回程地元のボランティアの方と関わる時間を設けている。				

愛媛県グループホーム御幸の杜

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自分で服を選んだり、更衣時は、その人にあった服装を提供している。				希望があれば個別に買い物にも出かけており、その際に化粧品を購入し、自分でフェイスクアをする女性利用者もいる。利用者が希望する美容室へ個別に送迎するなどの支援も行っている。職員は、普段から利用者の好みや習慣を把握しており、重度な状態であっても好みの身だしなみで、快適に暮らせるようさりげなく支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	ご本人の好み、希望を把握しており、それに合った物など提供している。又その都度確認している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	その都度本人、職員で話合うようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	家族に協力してもらい衣替えや必要な衣服の交換をお願いしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、ブライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	寝癖直しや、個々のティッシュの交換を用意している。汚れた物はすぐに変えたり、汚れないように対応している。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	訪問美容を利用している。好みの美容室に行かれる方もいる。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	入浴時や起きた時に整えるようにしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	それぞれが、食べやすい食事形態にしている。				1階のユニットのキッチンでまとめて調理をしている。献立は、利用者の希望を取り入れながら職員が立案している。利用者の好みやアレルギーの有無は入居時に把握しており、アセスメント時にも情報を記録している。食器類は好みのものを持ち込んでもらったり、家族からプレゼントされたものを使ったりして、自由に使うことができる。職員も同じメニューの食事を同じ食卓で共に摂っており、食事のサポートを行い、会話をはずませながら楽しい時間を過ごしていた。重度な利用者であっても、食事形態を工夫して、細やかなメニュー説明を行いながら、食事を楽しめるようにサポートしており、反応を見ながら声かけする様子が見られた。食事量や食事形態などの話し合いを行っており、医師のアドバイスを受けながら支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立作りの際周囲にいる利用者に食べたいものを伺っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来る利用者が少なく行う事は難しいが、その日の体調や精神状態によって簡単な作業をさせていただいている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	概ね把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	旬な食材を取り入れるようにしている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	その都度状態に合わせ提供してい。彩がわかりやすくしている。提供時説明してメニューを伝えている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入居時にご本人の物をもってきてもらうようにしている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	一緒に食事をとり、声掛けをしたり、食器の配置を変えるなど工夫している。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	「もうすぐごはんですよ」等の声掛けを行い、食欲のわく声掛けをしている。又メニューも伝えている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一人ひとりが食べ切れる量を提供し、食事量・水分量のチェックも行っている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分チェック表や日々の様子を参考にし、工夫している。バイタルチェック・排泄チェックも行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	血液検査の結果等も踏まえて相談しながら必要な栄養素を含んだメニューを取り入れている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理用具は毎日消毒し、古い物は処分している。食材は新鮮な物を調達している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後一人ひとりにあったケア方法を行っている。				歯茎や義歯の不具合には、必要に応じて訪問歯科診療へつないでいるが、セルフケアできる利用者も含め、定期的に口腔内の健康状況が把握できるよう取り組んで欲しい。嚥下障害や肺炎のリスクの高い利用者もいるため、口腔体操を取り入れている。食後にはユニットの洗面台で歯磨きなどの口腔ケアを実施し、利用者の状況に応じ、できないことを職員が支援し、記録にも残している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	口腔ケア時、口腔内の様子を見ている。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	相談時にその都度説明、指示をいただき実践している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後声掛けしている。義歯洗浄剤も使用している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	ストレスのない程度にお伝えし対応している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	不具合があった際はすぐ歯科往診をするようにしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄のコントロール、トイレ時間のチェックを行い、一人ひとりの状態に応じた対応を心がけている。				水分摂取量や食事メニューに配慮してトイレでの自然排泄を支援し、利用者個々にトイレ誘導を行っている。歩行が不安定な利用者や居室がトイレから遠い場合などは、ポータブルトイレを利用する場合もあり、利用者が安心して排泄できるように支援している。紙パンツやおむつなど、利用者の状態により使用している排泄用品は様々ではあるが、状態に合ったものを適宜選択している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	水分・食事チェック表を確認したり、悪化しないよう対策をとっている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	排便チェック表を作成している。バイタルの変化、腹部触診も行っている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	パットを使用している方であっても時間ごとにトイレ誘導を行い、排泄を促している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事や運動、体温を上げたり、排泄のリズムを検討しなおして実践している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	食前・食後にトイレの声掛けをしている。排泄のリズムやその方の行動を把握するよう努めている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人様に不快のないようにお伝えして使用していただいたり、家族様にも変更時必要であればお話しし、理解を得ている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	◎	利用者の状態を把握した上であった排泄下着を使っている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	水分補給や利用者の排便の状態を観察している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	×	利用者の希望はかなり難しくなっている。行事、外出があるときなどは本人の希望を聞いている。	◎		○	利用者の希望をすべて叶えることはできていないとしているが、無理強いをすることなく、声かけを工夫しながら支援している。利用者の重度化に合わせて浴室のリフォームを行い、浴槽のまたぎが困難でも座位のまま湯につかれるように改修され、安楽に入浴を楽しんでもらえるように支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	入浴時はゆっくり湯船につかりながらスタッフと話をしている。気持ちよかったと言っていただいている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来る事は自分でやってもらい、見守りを行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	時間をおいたり、スタッフを変えたりして声掛けを行っている。穏やかに入浴できる時間帯を把握し、その時間に入って頂いている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定を行い、顔色、本人のその日の状態を確認している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	その日によって異なることもあるが、だいたい把握できている。				睡眠導入剤などの服薬処方がある利用者もいるが、医師と相談しながら減薬に努めている。利用者の生活リズムを大切にして、快適に休んでもらえるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	原因は何かを話し合い、一日のリズムが狂わないように努めている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	内服に頼るのではなく、日中の活動を多くしたり、記録を確認しながらそれでも不眠の状態が続くようなら主治医にも相談している。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	常に利用者を見守り、必要な時は休んで頂いている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	全員ではないが、希望はお聞きし電話をしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	職員が変わりに電話をかけて家族の方と話せるようにしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	いつでも話せるようにしている。又ご家族の方等に都合の良い時間も確認している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	外部から手紙等はあまりない。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	利用者が希望するのであればご家族等に都合の良い時間等確認している。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	鍵つきの机にお小遣いは入れていおり、金銭出納帳をつけて管理している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	外出がでかる方は本人様の希望の物を購入してもらっている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	必要な物は職員が購入をしていくことが多いが、外出時等に職員同行で買い物に行かれることもある。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金を自分で所持している方はいらっしゃらない。今後希望があればその都度話合っていきたい。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	大きい買い物をする際はご家族にも相談している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	○	金銭出納帳にてお金の流れがわかるようにしている。面会時ご家族に確認して頂いている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人・ご家族の意向を尊重できるよう努めている。	◎		○	別の施設に入所中の配偶者が看取りの時期になったことから、職員が付き添い、お見舞いに行ったことで利用者にも家族にも大変喜ばれた。今後もできる限り利用者や家族の希望には柔軟に対応したいと考えている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	○	いつでも気軽に来ていただけるよう玄関に季節のものを置いている。	◎	○	○	事業所建物はウッドデッキがあり、家庭的な雰囲気で住宅街の中に馴染ん でいる。代表者の配慮で玄関まわり等には植木や花もあり、和やかで家庭 的な雰囲気を演出している。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	○	共有の空間は静かな、落ち着いた雰囲気作りをしている。季節の創作を飾っている。	◎	○	◎	調度品のほとんどが個人宅にあるもので、家庭的な雰囲気が感じられ、居 室から顔を出せば皆の様子が伺える作りであるため安心感が得られてい る。掃除は職員が行っているが、居室でのシーツ交換などを一緒に行う利 用者もいて、清潔な暮らしを共に作っている。利用者と共に作った季節の貼 り絵などが廊下に飾られており、利用者も「これが私の」と掲示されることが 張り合いになっている様子であった。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	不快な匂いがないよう換気をこまめに行ったり、消臭剤を使用している。			○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	○	リビング・廊下に季節の絵や写真、創作を飾り楽しんで頂いている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	◎	廊下にソファを置き、利用者様同士でコミュニケーションが図れるようにしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	◎	リビングから直接浴室・トイレは見えない設計になっている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	◎	利用者様が使い慣れた物を持ってきてもらい、配置等本人・ご家族と相談している。	◎		◎	使い慣れた家具を自宅から持参してもらい、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。たんすや椅子の他、仏壇や掛け軸なども持参している。居室の入 口に、名前入りののれんを手作りしている利用者もいて、それぞれの生活 を楽しんでいる様子が見られた。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	○	手すりをつけたり、スタッフ介助にて安全に気をつけている。			○	トイレや浴室などの共用部には掲示物で、居室には理解できる目印を工夫 して、混乱を最小にしながら生活できるよう環境を整えている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	○	目印をつけたり、常に職員が声掛けをしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	身体に危険の及ばないもののみ置いている。本やコップ類は手にとれるようにしている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟） の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等）	△	居室には鍵はついていない。玄関は防犯の為にロックをしていることもある。事務所に管理者が いる時は空けておくよう努めてはいる。	×	◎	△	玄関横に事務室があり、職員の在室時には施錠していないが、不在時には 施錠している。防犯や安全確保のためとしているが、事業所だけでなく、 利用者や家族とも話し合って理解を深め、施錠する時間帯が少しでも減ら していけるように取り組んで欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っ ている。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	解放的な暮らしは理解としているが、玄関は施錠していることが多い。今後の課題としている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等）。	△	会議で家族様、地域の方にはお話しして理解していただいているが、長時間の解放ができ ていないのが現状のため今後の課題としていかなければならない。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	フェイスシートを確認している。又アセスメントの際確認を行っている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	申し送りの徹底。いつもと違う様子がある際には記録を残すようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医・訪問看護と連携を図り指示をもらい対応している。主治医は月2回往診、訪問看護は週一回きてもらっている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人様の希望している馴染みの深い機関を利用していただいている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	契約時にもお伝えして希望を取り入れ納得を得ている。家族様の協力も得ている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診前後に報告している。同行をしてくださる家族様もいらっしゃる。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	事前に情報シートなどを作成しており、緊急時にもすぐに提出できるようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院・医師と共有している。電話・訪問等で相談している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	かかりつけ医・訪問看護と連携を図れている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者様の変化に気づき、訪問看護師に報告している。職員全員が情報を共有している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪問看護師24時間体制であり、連絡体制は整っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々のバイタル測定・状態を看護師に報告に情報共有に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の処方箋を確認するようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	名前、日付、朝・昼・夕・眠セットする際、内服する際は必ず声に出して行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬の変更・増量があった際には申し送りノートに記入している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態に変化があった場合には訪問看護・主治医に連絡し、相談している。迅速な対応ができるよう努めている。				

愛媛県グループホーム御幸の杜

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	ご家族様とも話し合い意向を伺っている。変化があれば面会時記録を見ながらお話ししたり、電話等でも状態を伝えるようにしている。				家族から事業所での看とりの希望はあるが、現状としては24時間体制の医療的ケアが必要な状態になると他の機関へ移動してもらっている。重度化が進行しても、医療的ケアの少ない利用者は事業所で継続して支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	主治医・訪問看護師にも意向をお伝えし、今後の方針等を伝えている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	ご家族の希望、主治医の助言を元に訪問看護師にも相談し、今出来るケアがしっかり行えるよう伝えるように努めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居時にお話ししているが、その都度家族様にも再度話をし、理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族の意見、要望に応じて相談し、希望する医療機関で主審ができるよう努めている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	◎	家族様の思いを伺い、面会時等話をゆっくり聞くよう努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	ミーティングで話し合っているが、今後は時期ごとに感染予防も変化してくるので詳しく勉強会を行っていきたい。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染予防はできているが、対応についても勉強会を開催していきたい。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	なるべく最新情報を確認し予防に努めている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域・系列の施設の流行に合わせ予防・対策をしている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	玄関に消毒・マスクを設置している。職員にもうがい・手洗いの徹底も常に伝えており、できている。必要時はマスクの着用もしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族との会話は大事にしており、面会時は記録をみてもらっている。近況の報告もさせていた				家族の行事への参加は少ないと感じており、以前実施していた家族会の再開や、利用者の日常生活や現状を伝えるための取組みに期待したい。来訪の機会が少ない家族には、電話連絡やお便りを送付し、暮らしぶりを伝えている。介護計画などの書類を郵送する際には、家族意見がもらえるように返信用封筒を同封することもあり、一方的な対応にならないよう配慮している。運営上の事柄は運営推進会議で伝えているが、参加者のみの情報伝達となっているため、見直しを検討している。家族の来訪時には声かけをしたり、居室でゆっくり過ごしてもらえるようにもてなしており、良好な関係が構築できるように努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	面会時はゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。お茶を飲みながら居室で過ごしてもらっている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	△	面会時レクリエーションを見学されることもあるが、行事等には参加される方は少ない。	○		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	遠方の家族様には電話で状況をお伝えしたり、たよりを送らせていただいている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	夜間の状態を心配されている家族様もいっしょに記録を見ながら説明させていただいている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	利用者様のその時の状態を常にお話しはさせていただき、理解を得よう努めている。ご家族の方から面会時の対応、時間等をどのようにしたら良いのかと質問もあり話しをし家族様にも納得を得られるようにしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	介護支援専門員が交代することについてはお手紙を送らせていただいたが、職員が異動・退職に関しては口頭でお話しはしている。整備等・機械の導入については運営推進会議でお話しはしているが、全員ではないので今後伝えていきたい。	○		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	△	運営推進会議の際はお互いがお話しをされてるが、全員ではないため家族会の実施は今後の課題であると思う。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	◎	一人ひとりに起こるりうるリスクは家族様に伝えている。				
38	契約に関する説明と納得	j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時は職員が挨拶に入った際状態をお話しできている。			○	
		a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約に関しては入所時に具体的にわかりやすく説明を行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退所に至る際も丁寧に理由を説明し、次に移れるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	○	入所時にお伝えし、同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で説明を行っている。		○		町内会に入会しており、地方祭のおみこし巡行では一番に来てくれるなど、地域の温かい配慮を感じている。日々の散歩でも声をかけてくれることが増えたと実感しており、日常的なご近所関係が深まっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	散歩時や外出の際挨拶を行うよう努めている。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	最近の様子を聞いて下さったり、お話ししてお伝えしている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	◎	近所の方が時々来所してくださったり、お話ししてくださる。困ったことがあった時も来所されることもあり、職員が対応したり、お話ししている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	隣の方、前の家の方とお会いすると日常会話は習慣になっている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	◎	ホーム内にて月2回ボランティアに来てもらっている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	訪問美容に来ていただいたり、ボランティアにも来てもらっている。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	消防訓練時には地域の方と公民館を使用することもあり、利用者様ともコミュニケーションを図れている。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域の方は毎回参加して下さる。ご家族の方にも手紙と電話でお知らせしているが、家族様については同じメンバーのことが多い。	◎		○	家族や地域住民の参加協力を得ているが、固定化傾向にあり、今後はさらに多くの参加を得る工夫に取り組みたいと考えている。運営状況の報告に加え、サービス評価に関する報告や取組みについて参加者と意見を交換して欲しい。事業所からの報告だけでなく、自主防災組織による安全講習など、議題や進行などの協力も得られており、有意義な会となっている。話し合った内容や意見は運営に反映するよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	△	活動報告は行っているが、自己評価、外部評価の内容については報告ができていない。今後はしていきたい。			△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	家族・地域の方からの質問、意見を聞く時間も設けている。		○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	会議に合わせて勤務を調整しており、必ず1.2階のリーダー・サブリーダーが参加し各階のことを話す時間を設けている。入居者様にも参加していただき、お話しをしていただいている。		○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関にファイリングをし誰でも見れるようにしているが、今後は参加をしていないご家族様にも活動報告等をお手紙で送付していきたい。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	ミーティングの際に確認し、できていないことは改善するよう話し合い共有して実践できるよう努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	入所時の説明時にお伝えし、面会時、訪問時にもお話しさせて頂いてる。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	積極的に受けれるように声をかけていただいている。また支援もしていただいている。				サービス評価の調査には代表者も参加している。代表者は日頃から運営の実情を確認し、職員の努力に感謝している。法人としてはストレスチェックの実施など、精神面でのフォローを行っているが、慢性的な人手不足という課題を持っており、現場の生の声を正確に把握し、より働きやすい環境作りの取組みに期待したい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実際現場に入って職員がスキル・キャリアアップできるよう指導していただいている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	環境整備に関してはすぐに対応してくださっている。人員不足はあまり改善されていない。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	研修など負担なく参加できるようにしていただいている。又同系列の職員とも関われる環境である。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	毎年ストレスチェックを実施している。工夫、努力はしていただいているが改善はされていない。	◎	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	具体的細かな事はミーティング等で再確認・指導を行っている。				ミーティングの時間を使い虐待防止に関する勉強会を行うなど事業所全体で理解を深めており、虐待などの不適切なケアはない。不適切なケアや声かけなどが疑われる場合は、速やかに話し合いの場を設けたり、管理者へ相談を行っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	現場に入って同じ業務をしている。リアルタイムで話せている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	利用者の立場を考えてケアするよう再確認・検討して実践している。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気づきがあればその都度指導していただいている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修の報告・申し送り等で職員間で共有している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	一人ひとりの生活環境に合わせて疑問に思った時はその場で対応する時がある。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束しなくていい方法を検討しつつ、家族様に説明し理解を得るようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	ホーム内でも利用されている方がいるので概ね理解できている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	電話での相談を行ったり、詳しくは介護支援専門員につなげている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要があれば専門金貨と相談できるよう連携をとっている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	定期的に見直してマニュアル変更したり、ミーティングの際説明し、共有している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	事故対策を話したり、実際にあった場合にも対応ができるよう看護師にも指示受けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	その都度報告し、対策をとっている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	日常生活でその方の危険予測を話し合い居室やホーム内の環境づくりも配慮しながら対策をとっている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルを作成し共有を図っているが十分には浸透できていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があった場合にはスタッフ全員で話し合い、解決ができるように取り組んでいる。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情がある場合は検討したのち報告し、納得を得られるよう努める。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	要望があった場合には話あう時間を作り、解決につなげていくよう努めている。			○	利用者からは日頃の支援の中で要望を聞き取るよう努めている。家族には面会時に尋ねているほか、文書で返送してもらうように工夫している。代表者は日頃から事業所に顔を出しており、職員や管理者から意見を聞く機会を持っているが、慢性的な人手不足によって職員は疲労している感がある。代表者自身も現状への認識もあり、今後職員の意見や提案を実現していく取組みに期待したい。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時、運営推進会議の際にまたは個人的にお話して頂いてる。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	いつでも話せる環境づくりに努めている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	時折現場に来られている。必要時は電話対応にて応じている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	現場に入っていたり、職員と近い関係性であるためすぐに相談。対応してくださっている。			△	

愛媛県グループホーム御幸の杜

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	ミーティングの際に話し合い、理解し、サービス向上に向けて努めている				運営推進会議では評価結果を報告している。今後は運営推進会議等の場を活用し、参加者と共に課題の改善に努めたいと考えており、今後の取り組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	問題点や今後の課題をミーティング申し送りで共有している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	報告書に残し検討してできることは実践に移すよう努めている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で報告し、感想や提案をいただくことがある。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	問題点においては今後どうなったのか結果、報告することもある。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	定期的に見直し、目につくところに配置している。会議での説明も行っている。				地域の自主防災組織との連携により、職員は訓練にも参加している。事業所の避難訓練には、今後地域の協力・支援体制を強化していく予定である。事業所には防災士の資格を取得している職員もあり、今後はさらに積極的に災害への備えを進めていきたいと考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に2回消防訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	避難訓練実施の時に避難経路の確認をしている。非常食・物品も倉庫に保管はいつかしてあるが、整理し、揃えていきたい。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	運営推進会議の中で避難訓練を実施したり、防災について話し合う時もある。地域の方も避難訓練に参加してくださっているが、近隣の他事業所とは話し合う機会を作れていない。	○	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	運営推進会議に防災訓練を兼ね合わせ家族・地域の方にも参加出来るように努めている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議等にも実際の現場の様子をお伝えしたり、研修で学んだことを発表させていただいている。				日頃より近隣の高齢者から寄せられる日常生活での困りごとや、介護保険サービスの利用について相談に乗っているが、地域全体へ情報を発信し、その輪が広がることに期待したい。市や地域包括支援センターとは良好な協力関係にあり、学生のボランティアなどの受け入れについても積極的である。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があった際は行っている。専門機関に案内することもある。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	事業所を解放するまでには至っていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	ボランティアの受け入れやニチイの実習生の受け入れをしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	情報はあるが参加活動はできていない。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成30年11月28日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870102153
事業所名	グループホーム御幸の杜
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏 名	新田 智加
自己評価作成日	平成30年 10 月 1 日

【事業所理念】 1.入居者に対しては、常に一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬い家庭的な環境の下、有する能力に応じた日常生活が送れるように努めます。 2.職員は、自分の仕事に誇りを持ち、「家訓」の実践に工夫と反省を心掛けて、「自分や家族が入居したいと思う」職場作りに努めます。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 1地域の行事に参加し、利用者の顔を知って頂き、職員が間に入り話しやすい環境を作る。また行事にも気軽に参加していただけるように声をかける。納涼祭・地域の行事に参加する。納涼祭に参加していただけるように地域の方に案内を送付する。○町内の方にボランティアに毎週月曜日に来ていただき、入居者様と昔話・歌・紙芝居などのレクリエーションを行い交流を深めている。地域の行事に関しては秋まつりに神輿(子供みこし)にきていただき、地域の方ともコミュニケーションを図ることができている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 静かな住宅地の中にあり、川沿いののどかな風景の中の散歩を楽しんでいる。利用者の高齢化や重度化により、限られた人員配置での支援は厳しい状況でもあるが、利用者を主体とした対応に努めている。若い職員を中心とした職員の団結力は頼もしく、利用者の立場、視点に立った支援を考えている事業所である。
--	---	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	会話中や日常生活の中で組みとるようにしている。	◎		◎	日頃の会話から、利用者の意向を聞き取るように努めている。把握した情報はミーティングで共有し、介護支援専門員に報告し、介護計画へとつなげている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	家族様や利用者の立場になって検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	日常生活の中から組とり、ミーティング等で話し合っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	本人の様子、会話、出来事などを記録している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員間で本人の思いを共有し、叶えてあげれるように努力している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	本人、家族様より利用者一人ひとりの生活環境やこだわり大切にしてきたことを把握し、努力している。			◎	家族には入居時や面会時に、家庭での様子や若い頃の話等を聞いたり、これまで利用してきたサービス事業者から情報を得たりして個人ファイルにまとめている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日常生活の中より現状の把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活の中より表情や言葉を組とり状態や変化がわかるようにしている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	ミーティング等で話し合いをし、把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	職員間で話し合いをし、共有し、一人ひとりの生活のリズムに合わせて過ごすことができる。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	把握して情報を基にミーティング等で話し合い実現できるよう努めている。			○	利用者や家族から聞き取った内容を踏まえ、ミーティングや毎日の申し送り で情報を共有し、利用者が求めていることや必要としていることを検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ミーティング等で話し合い実現に向けて支援している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	記録に残し、家族様にその都度説明している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	利用者一人ひとりの希望や思いが実現できるように努めている。				ミーティングを開催し、職員が把握した情報を介護計画に活かせるよう、職員間で意見を出し合っている。利用者の思いを実現するための方法を検討しており、職員からはアイデアがよく出されている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族の要望、希望を聞き支援できるように作成している。	◎		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	傾聴し、周りに相談しながら行っている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	必要時には連絡し、努力して頂いている。				
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ファイルを作成し職員間で共有している。			○	個別ファイルに介護計画を挟みこんで、利用者毎の計画内容の共有・理解につなげている。介護計画に沿った実践の記録には印を付け、モニタリング時にもチェック漏れがないように工夫している。実践できなかった時は深い理解へとつなげるため、どんな様子であったかなど具体的な記録が望まれる。利用者の細やかな様子や気づきを記録できる職員もいるが、全職員が同様に記録のスキルが高まることに期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	記録に記入し、ミーティング等で話合っている。			△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日常生活の様子を記録し、個別ファイルを作成している。			△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	その都度様子発言等を記録している。			△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	6か月に1回見直しを行っている。			◎	基本的には6か月で見直しを行っているが、毎月開催するミーティングで利用者の状態を一人ずつ丁寧に確認している。利用者の状態に変化が生じた場合には、随時見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	ミーティングに参加、他のスタッフとも情報を共有している。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	その都度本人、家族様と話し合って見直しを作成している。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	毎月ミーティングを行い話し合っている。緊急時の対応はできていない。			○	チームケアのための会議として、月2回ミーティングを開催しており、緊急案件があれば毎日の申し送りで必要な相談や検討を行っている。ミーティングに参加できなかった職員は会議録を回覧して情報を共有し、サインや押印で確認状況も把握している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	意見を出したり、話せる環境、雰囲気作りに努めている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	職員に声掛けし、日程を決めている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録を作成し、不参加の職員も見れるようにしている。申し送りも行っている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りの実施、申し送りノートの記入、確認を行っている。			◎	家族からの連絡事項などのやり取りや重要な情報は、申し送りノートに記載し、出勤時に確認し共有する仕組みになっている。またサインや押印で確認状況を把握している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	出勤後の申し送りノートの確認、サインを行っている。	◎			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	その日にしたいことの把握には努めているが、それを毎日叶えることはできていない。外出支援等。				生活の場面では、その都度利用者の希望をうかがい、意向に沿った支援に努めている。職員は年齢層が幅広く、それぞれの良さを認め合いながら、声かけの方法を学び、状況によっては声かけの時間をずらしたり、職員を代えてみたりしながら、利用者の思いや希望が引き出せるように支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	声掛けをし、様子を見ながら本人の希望を聞くようにしている。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	声掛け、傾聴し、支援している。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	個人の意思希望を聞き出せるように声かけをし、その都度対応している。				
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	その日の様子を知るための声掛けをしている。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	排便がなく、落ち着かない日もあれば気温が高くイライラすることもありその都度様子観察をし、対応している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	個人の意思希望を聞き出せるように声かけをし、その都度対応している。	◎	○	○	プライバシーや利用者の誇りに配慮した対応を意識しており、人権や尊重について学びの機会を設けている。調査時には利用者に丁寧な口調で声かけをしていた。居室への入退室についても、ノックや利用者への声かけを徹底する等して、配慮に努めている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	声の大きさに注意している。食事前・口腔ケア後に声掛けをするようにしている。			◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	他の利用者にはみえないように努めている。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入室の際はノックをしたり、声をかけてからの入室をしている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	他の利用者の前では話さないように厳守している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	簡単な作業を手伝っていただきながら、会話をし、関係性を築くようにしている。				多くの時間を共にするリビングでは、利用者の症状や相性を考慮して配席を工夫している。他利用者の様子が気になってしまう利用者には、相性の良い利用者の力も借りて、席替えを行うことで和やかな雰囲気へと改善したケースがある。トラブルになりそうな場面でも、職員が間に入ってコミュニケーションをとりながら、穏やかに過ごしてもらえよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	簡単な作業を皆で手伝ってもらい共同作業をする。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	常に見守りをし、個々の意見を傾聴し、注意、助言をしながら、トラブルにならないように努めている。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブル等両者の意見を聞き、話し合いをするなど関係改善に努めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	リーダーが中心となって把握しており、話し合いが行えている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	各担当者が把握に努めている。慣れ親しんだ場所へドライブや散歩に行くこともある。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	外出する機会を設けているが、本人が知人に会う場合はこちらに来て頂く事が殆どでこちらからお伺いする支援は出来ていない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	大人数で来られた時は会議室を解放して皆様でゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。また玄関まわりに花を植え、環境作りに配慮している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	△	日用品を一緒に買い物にいたり、個別ケアにて外食、買い物に行っているが、できていないことのほうがほとんどである。	△	◎	△	事業所周辺道路は、朝夕の通勤時間帯以外は車も少ないため、日常的に散歩に出かけている。地域の方から散歩途中に声をかけてもらうことも多い。気候の悪い時期や重度の利用者は、敷地内で日光浴をしながらお茶を飲むなど、外気に触れる機会を持って気分転換を図っている。利用者の重度化が進み、皆で揃って出かけることが難しくなっており、管理者や職員も課題であると感じている。職員から個別外出支援のアイデアが出ており、その取組みに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	◎	毎週月曜日の午後月2回ボランティアの方に来ていただき、紙芝居、昔の歌を歌ったり、レクリエーションを行っている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	玄関先までいたり、庭に日光浴にいたりしている。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族と外出されている方が数名いらっしゃる。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	なぜ、どうしたらいいか等スタッフと意見を出し合いながらケアを行っている。				難病の利用者は、個別に訪問看護ステーションでリハビリテーションを受けている。職員も病状について理解を深めるため、看護師から助言をもらっている。利用者ができることは時間がかかってもできるだけ自分で行えるように支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活の中で手作業、生活リハビリを行っている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	洗濯物置、袋折りなどできることは自分でしていただくように支援している。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	個々の役割がもてるようにコミュニケーションを図りながら役割がもてるように努めている。				職員が、一緒にしませんかと声をかけることもあるが、利用者が自主的に家事をしてくれることが多い。ボランティアが定期的に訪問し、歌や紙芝居の他、ゲーム等のレクリエーションを楽しんでいる。利用者の状態により楽しめるゲームに差が出るため、ボランティアと職員は打ち合わせの時間を持つようにしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者の体調等を配慮しながら、食器洗い等一緒に役割をもてるよう支援している。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の方が訪問された時に一緒に話ができるようにしている。				

愛媛県グループホーム御幸の杜

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人らしい服装になるように努めている。				希望があれば個別に買い物にも出かけており、その際に化粧品を購入し、自分でフェイスクアをする女性利用者もいる。利用者が希望する美容室へ個別に送迎するなどの支援も行っている。職員は、普段から利用者の好みや習慣を把握しており、重度な状態であっても好みの身だしなみで、快適に暮らせるようさりげなく支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	利用者の個性を活かし身だしなみ等支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人に寄り添って配慮し、支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出や行事ごとなどその都度配慮、支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	さりげなく配慮し、支援している	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	1. 2か月に一回訪問カットにきてもらっている。希望者は美容院に行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	出来る範囲でその人らしかが保てれるように努めている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	個人の状態を把握し、介助に努めている				1階のユニットのキッチンでまとめて調理をしている。献立は、利用者の希望を取り入れながら職員が立案している。利用者の好みやアレルギーの有無は入居時に把握しており、アセスメント時にも情報を記録している。食器類は好みのものを持ち込んでもらったり、家族からプレゼントされたものを使ったりして、自由に使うことができる。職員も同じメニューの食事を同じ食卓で共に摂っており、食事のサポートを行い、会話をはずませながら楽しい時間を過ごしていた。重度な利用者であっても、食事形態を工夫して、細やかなメニュー説明を行いながら、食事を楽しめるようにサポートしており、反応を見ながら声かけする様子が見られた。食事量や食事形態などの話し合いを行っており、医師のアドバイスを受けながら支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	じやがいもの皮むき、もやしの根とりなど一緒に行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	個人的な買い物は利用者と一緒に行く機会を設けている。血洗い等一緒に行っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	きらいなものは他のものい変更したり、個々に合わせている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節ごとによって献立を考え旬な食材を取り入れるように努めている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	○	一人ひとりの嚥下の状態に合わせた形態にしている。刻み食にする際には盛り付け、彩に注意している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	個々利用者にあわせた食器、つかいやすいものを使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食事介助をしながら一人ひとりの様子を見守りし、サポートしている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	声かけしながら食事が進むように配慮している。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者一人ひとりの状態を把握し、確保できるよう努めている。水分のチェックも行っている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	その日の体調に合わせて食事の提供、水分の提供を行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	スタッフで話し合っているが、栄養士は不在のためアドバイスは受けれていない。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板の消毒、手洗いの徹底、衛生管理に努めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	歯科医の助言を受け入れながら口腔ケアの重要性、誤嚥性肺炎のリスクも理解できている。				歯茎や義歯の不具合には、必要に応じて訪問歯科診療へつないでいるが、セルフケアできる利用者も含め、定期的に口腔内の健康状況が把握できるよう取り組んで欲しい。嚥下障害や肺炎のリスクの高い利用者もいるため、口腔体操を取り入れている。食後にはユニットの洗面台で歯磨きなどの口腔ケアを実施し、利用者の状況に応じ、できないことを職員が支援し、記録にも残している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	◎	口腔ケア時、食事の際に注意するよう努めている。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科衛生士より口腔ケアの仕方を学んだり、気を付けることをその都度教えてもらっている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後口腔ケアを行い口腔内の清潔に努めている。義歯洗浄も夜間行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	毎食後口腔ケアを実施し、スポンジブラシ・口腔ガーゼを使用してのケアも行っている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	口腔内の状態を確認、本人の痛みの有無を確認し、訪問歯科、衛生士に連絡している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄パターンを把握し、時間で誘導、声掛けしている。変化があればその都度話し合いをしている。				水分摂取量や食事メニューに配慮してトイレでの自然排泄を支援し、利用者個々にトイレ誘導を行っている。歩行が不安定な利用者や居室がトイレから遠い場合などは、ポータブルトイレを利用する場合もあり、利用者が安心して排泄できるように支援している。紙パンツやおむつなど、利用者の状態により使用している排泄用品は様々ではあるが、状態に合ったものを適宜選択している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	腹部マッサージをしたり、食物繊維の多いものを摂取していただけるよう心がけている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	排便チェック表を基に一人ひとり把握に努めている。チェック表に記録を残し、必要に応じて薬での対応もしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄支援を行えるよう努めている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分量の調節、食事量を見直したり、スタッフで改善に向けて話し合いを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を確認し、一人ひとりの排泄パターンを確認、観察している。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人様に不快をあたえないかチェックしながら選択している。家族様が今まで使用していたものを持参してくださる方もいる。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	日中・夜間のパットを変えたり、パットの確認をしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	水分をこまめに飲んでもらったり、ウォーキング等積極的に声掛けをしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	◎	声掛けをして入浴していただいている。入浴拒否が続く方については時間を決めず声掛けをしながら入浴をしていただいている。	◎		○	利用者の希望をすべて叶えることはできていないとしているが、無理強いをすることなく、声かけを工夫しながら支援している。利用者の重度化に合わせて浴室のリフォームを行い、浴槽のまたぎが困難でも座位のまま湯につかれるように改修され、安楽に入浴を楽しんでもらえるように支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	楽しく会話しながら、一人ひとりの状態を観察しながら支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	全て介助ではなく、手の届く所は自分で見守りをしながら洗って頂いている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴する前に気持ちをほぐせるよう会話の中に安堵感をもっていただいている。時間を置いたり、職員を変えたりしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	必ず入浴前にはバイタルチェックをし、入浴後は水分の補給を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	スタッフ間で前日の睡眠の状態の確認をしている。記録、申し送りも行っている。				睡眠導入剤などの服薬処方がある利用者もいるが、医師と相談しながら減薬に努めている。利用者の生活リズムを大切にして、快適に休んでもらえるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	利用者のペースに合わせて食事時間を変更したり、生活リズムに合わせている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	安眠できるよう、日中にレクをしたり、塗り絵をしたり支援しているが、どうしても薬に頼らなければならない際はスタッフ、主治医と話し合いをしている。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	ソファで休んで頂いたり、居室で休んで頂くよう声掛けしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族様と電話でお話する際はご都合の良い時間を聞いている。ゆっくり話ができるよう居室や別室で電話をして頂いている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話する際横について職員が説明したり、しながら話される方もいらっしゃる。手紙に関しては宛先を書くのを職員が行っていることもある。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば事務所の電話でお話しをさせていただいている。携帯電話を持っている方は居室でゆっくり電話をされている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	本人様にお渡しをしているが、返信はできていないこともあるので今後取り組んでいきたい。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	入所時に説明をさせていただいている。本人からの電話の希望があれば先に職員が連絡をさせていただき、都合の良い時間に電話をさせていただいている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	外出の時に買い物をする際には欲しい物を自分で選んでいるが支払いは本人の財布で職員が支払いしている事が多い。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	日用品は職員が購入してくているが、一緒に買い物に行くこともある。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	いつも行く手芸店に行かれる方がおり、追加注文の際には必ずお店に説明をしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族の許可がある方は小銭、千円程度をもっている方もいる。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	職員管理の元使用した金額の出納帳を必ず家族に見ていただいている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	○	家族の面会時に出納帳をお見せするようにしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	外出支援、就労に行かれている方もいらっしゃる。	◎		○	別の施設に入所中の配偶者が看取りの時期になったことから、職員が付き添い、お見舞いに行ったことで利用者にも家族にも大変喜ばれた。今後もできる限り利用者や家族の希望には柔軟に対応したいと考えている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	○	出入り口付近に小さなガーデニングがあり花を植えている。	◎	○	○	事業所建物はウッドデッキがあり、家庭的な雰囲気で住宅街の中に馴染ん でいる。代表者の配慮で玄関まわり等には植木や花もあり、和やかで家庭 的な雰囲気を演出している。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	利用者が使用しやすいよう、動きやすいようにテーブルを配置したり、心地よく過ごして頂けるよう ソファ、テレビなど娛樂していただいている。	◎	○	◎	調度品のほとんどが個人宅にあるもので、家庭的な雰囲気が感じられ、居 室から顔を出せば皆の様子が伺える作りであるため安心感が得られてい る。掃除は職員が行っているが、居室でのシーツ交換などを一緒に行う利 用者もいて、清潔な暮らしを共に作っている。利用者と共に作った季節の貼 り絵などが廊下に飾られており、利用者も「これが私の」と掲示されることが 張り合いになっている様子であった。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	窓の換気はこまめにしている。毎日の清掃は徹底している。			○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	○	テーブルの上に季節の花活けたり、季節のものを飾っている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	○	利用者一人ひとりの好みを把握し、和やかな雰囲気が出るようにしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	○	共用スペースから浴室、トイレは見えない構造になっている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	○	今まで使用していた物を持ってきていただき心地よく生活ができるように努めている。	◎		◎	使い慣れた家具を自宅から持参してもらい、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。たんすや椅子の他、仏壇や掛け軸なども持参している。居室の入 口に、名前入りののれんを手作りしている利用者もいて、それぞれの生活 を楽しんでいる様子が見られた。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	○	手すりや介護用品を活用して移動できるように配慮している。安全・安心に目を配りながらも利用 者の自立支援が出来るように努めている			○	トイレや浴室などの共用部には掲示物で、居室には理解できる目印を工夫 して、混乱を最小にしながら生活できるよう環境を整えている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	○	混乱しないようトイレには名目を付けたりしているがそのほかの場所は職員が案内している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	各自家から持ってきた物を居室に置いている。仏壇、湯呑みなど、新聞もとっている方もいる。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟） の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等）	△	鍵をかけていることでの利用者の変化や弊害のリスクについては話し合いの場を設けたりする事 で職員の理解を深めている。	×	◎	△	玄関横に事務室があり、職員の在室時には施錠していないが、不在時に は施錠している。防犯や安全確保のためとしているが、事業所だけでなく、 利用者や家族とも話し合って理解を深め、施錠する時間帯が少しでも減ら していけるように取り組んで欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図って いる。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	家族には夜間帯は防犯のこともあるため鍵について話をしている。外にでしてしまう方もいるので鍵 をかけてしまうこともある。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等）。	△	自由にできるよう努めているが、むずかしい。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	把握できている人がほとんどだが、変更ごとに今後も確認をしていかなければならない。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々変化に気づけるよう状態観察し、記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	訪問看護、主治医と連携をとりスムーズにすすむよう努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	希望であれば引き続き今までのかかりつけ医に診て頂いている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	眼科・整形などは家族様同行している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	処方された薬や目薬などの情報を家族様から報告を受ける。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	アセスメントシートをほ病院に提出している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院に見舞いに行く際に今の現状や退院の見込み・施設に戻ってから注意する事など聞く機会を設けている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	主治医とは細かい変化があった場合でも連絡し状態把握に努めて頂いている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	週に一回木曜日に訪問看護しに変化や状態の報告を行っている。24時間オンコール対応もしてくださっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪問看護師、病院共に連絡ができる。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状態が急変した際はすぐに主治医に報告、受診している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	申し送り等行い、理解をしようとしているがスタッフ一人ひとりの努力が必要である。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	スタッフ一人ひとりが確認し、間違いのないように努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	コミュニケーションをとり観察している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	主治医に相談し、迅速な対応、指示を受けている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入所時に「重度化の指針」を説明させていただいておりサインをいただいている。状態の変化があった場合は迅速な対応をしている。				家族から事業所での看とりの希望はあるが、現状としては24時間体制の医療的ケアが必要な状態になると他の機関へ移動してもらっている。重度化が進行しても、医療的ケアの少ない利用者は事業所で継続して支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	その都度相談し、共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	リーダー中心に話し合い、家族にも連絡し、説明を行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	その都度家族にも連絡し、説明を行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人、家族様の希望を優先し、医師との連携を図っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	面会時、電話で家族の思いを傾聴している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	訪問看護師とも連携し、ミーティング・勉強会にて学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染用セットを倉庫に置いているが、すぐに使用できる場所に置いておくようにしていく。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	情報を収集し、スタッフ同士で共有している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	系列の施設、地域での流行に合わせ対策・予防をしている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い・うがいの徹底。玄関等にもアルコール消毒を設置している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時に様子を報告したり、コミュニケーションを図っている。				家族の行事への参加は少ないと感じており、以前実施していた家族会の再開や、利用者の日常生活や現状を伝えるための取組みに期待したい。来訪の機会が少ない家族には、電話連絡やお便りを送付し、暮らしぶりを伝えている。介護計画などの書類を郵送する際には、家族意見がもらえるように返信用封筒を同封することもあり、一方的な対応にならないよう配慮している。運営上の事柄は運営推進会議で伝えているが、参加者のみの情報伝達となっているため、見直しを検討している。家族の来訪時には声かけをしたり、居室でゆっくり過ごしてもらえるようにもてなしており、良好な関係が構築できるように努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	面会時はお茶を飲みながらゆっくり過ごせるよう努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	○	家族様が外出・外食や自宅と一緒に帰り過ごされることもある。	○		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	たよりを送っている。来所された際には日々の状況を報告している。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時には家族様の質問された内容についてもこたえられるようにしている。特に夜間の状態を聞いてこられる家族様もいらっしゃる				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	認知症の進行具合などわかりやすい言葉で話すよう努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	運営推進会議で報告している。職員等の異動等については手紙を送っている。ケアマネ交代など。	○		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	×	行事の案内は配布しているが、家族会は今年もできておらず、来年度は家族会を開催していきたい。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	家族様ともその都度話し合っている。				
38	契約に関する説明と納得	j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来所時はスタッフ側から声掛けをし、コミュニケーションを図っている。			○	
		a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	ゆっくり説明し、不安な事があればその都度お答えしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退所の際にもその理由を丁寧に説明し、次に移れるよう支援している。以前なかなか納得していただけないこともあったため管理者・リーダー中心にお話をさせていただいている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	○	料金改定時には文書と口頭にてその内容について説明を行い、同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議の際お伝えしている。地域のことで役に立てることがあればお伺いしている。		○		町内会に入会しており、地方祭のおみこし巡行では一番に来てくれるなど、地域の温かい配慮を感じている。日々の散歩でも声をかけてくれることが増えたと実感しており、日常的なご近所関係が深まっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	散歩の際には挨拶をし、顔を知っていただけるよう努めている。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	事業所の行事等に参加していただいている方はいらっしゃる				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	近くに住んでいる方が日常的に立ち寄ってくださる。時間を伝えたり、その方がディを待っている時間等こちらに立ち寄り入居者様とお話しをすることもある。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩の際に挨拶をしたり、気軽に立ち寄ってくださる方もあり、日常的なおつきあいはできている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	ボランティアの方が月曜日に来てくださっている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	ボランティアの方に来ていただいたり、訪問カットに来ていただいたりしている。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	×	できていない。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域の方、家族の方が参加し意見交換ができているがメンバーがマンネリ化していることもあるが、新しい入居者様の家族が新たに参加してくださることもある。	◎		○	家族や地域住民の参加協力を得ているが、固定化傾向にあり、今後はさらに多くの参加を得る工夫に取り組みたいと考えている。運営状況の報告に加え、サービス評価に関する報告や取組みについて参加者と意見を交換して欲しい。事業所からの報告だけでなく、自主防災組織による安全講習など、議題や進行などの協力も得られており、有意義な会となっている。話し合った内容や意見は運営に反映するよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	△	行事報告、取り組みについては説明しているが、外部評価の話し合いはできておらず、今後は話し合いをしていきたい。			△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	ユニットでの取り組み報告し、質問や意見を聞くようにしている。		○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加メンバーは変わらないが、新しい入居者様のご家族が参加してくださるようになった。平日の午前中に行っている。		○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	運営推進会議の報告書は玄関前のファイルに設置している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	全員が目にする場所に理念を貼り認識ができケアを行うよう心がけている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	家族様・利用者には伝えている。運営推進会議を行っている会議室にも理念は貼っている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	研修案内をファイルにし、参加をできるようにしているが、参加することが少ないため来年度はミーティング等で声掛けのようにしていきたい。				サービス評価の調査には代表者も参加している。代表者は日頃から運営の実情を確認し、職員の努力に感謝している。法人としてはストレスチェックの実施など、精神面でのフォローを行っているが、慢性的な人手不足という課題を持っており、現場の生の声を正確に把握し、より働きやすい環境作りの取組みに期待したい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	ミーティング等で職員間で話し合いが出来るように努めている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	資格所得は積極的に進めている。職員の確保が難しく、働いている職員に負担がかかりつつある。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同系列内で外出や行事に参加し交流が図れている。同業者の交流は研修を通じて情報交換を図っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	1年に1回ストレスチェックを実施している。	◎	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	外部研修に参加し、ミーティング等でも内部研修を行っている。				ミーティングの時間を使い虐待防止に関する勉強会を行うなど事業所全体で理解を深めており、虐待などの不適切なケアはない。不適切なケアや声かけなどが疑われる場合は、速やかに話し合いの場を設けたり、管理者へ相談を行っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	その都度話し合いをしている。ミーティング等でも話し合いができる場を作っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	ミーティングを時に注意喚起を行っている。また、各職員間で話し合えるように支援している。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的に職員と勤務形態(夜勤回数等)や勤務内容について話し合いが行えている。毎年ストレスチェックを行い心身の状態を把握に努めている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	ミーティング等で話し合いをし、勉強会にて共有している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	日常の中で不適切なケア・声のかけ方等職員一人一人が身体拘束に当てはまらないように考え話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	今の所家族からの要望はないが、入所時の説明で身体拘束の説明をしており同意して頂いている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	実際に制度を利用している利用者はいるが、管理者や一部の職員しか知らないし、具体的な事は分らない職員も多い。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	外部の研修に参加に社内研修等で知識を身に付けているが今のところ利用者や家族に説明できていない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	実際に利用している利用者があり、定期的に連絡を取り合い関係を築けている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、冷静かつ迅速に対応ができるように努めている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	すべての応急手当について理解出来ているとは言えないため今後は勉強会を開催してきたい。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを作成し未然に事故を防げるように努めている。また、その都度申し送りやミーティングで話し合いの場を設けている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々変化があれば話し合いを行っている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルを作成し意識共有を図っている。十分に対応方法全職員に浸透出来ていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	×	マニュアルは作成しているが、全員把握に努めていきたい。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情内容をもとに改善策を全員で考え経過観察・結果も記録に残す。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	居室で過ごしている時など日々の会話の中で意見・要望など話しやすい環境を作っている。			○	利用者からは日頃の支援の中で要望を聞き取るよう努めている。家族には面会時に尋ねているほか、文書で返送してもらうように工夫している。代表者は日頃から事業所に顔を出しており、職員や管理者から意見を聞く機会を持っているが、慢性的な人手不足によって職員は疲労している感がある。代表者自身も現状への認識もあり、今後職員の意見や提案を実現していく取組みに期待したい。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時・暗影推進会議の時に意見・要望は伺っている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	入所後家族から相談があった時は市町村の窓口をお伝えしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ミーティング時に意見を言いやすい環境作りを目指している。また、普段の会話の中から話し合う機会を設けている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングの時に意見が出やすい環境作りを目指している。また、職員も利用者主体で考え、思いが反映出来るように努めている。			△	

愛媛県グループホーム御幸の杜

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	自己評価は一年に一回実施しているが、十分に時間を設けることが出来ていない。今後はミーティング等で時間を設けていきたい。	/	/	/	運営推進会議では評価結果を報告している。今後は運営推進会議等の場を活用し、参加者と共に課題の改善に努めたいと考えており、今後の取り組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通じてミーティングで話し合いを行い改善に向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	無理な計画を立てるのではなく出来る事を中心に目標設定を努めている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議の際に報告を行っている。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ミーティング時に確認し、話し合い、改善している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	地震・火災・風水害のマニュアルを作成している。また、いつでも確認できるように掲示している。	/	/	/	地域の自主防災組織との連携により、職員は訓練にも参加している。事業所の避難訓練には、今後地域の協力・支援体制を強化していく予定である。事業所には防災士の資格を取得している職員もあり、今後はさらに積極的に災害への備えを進めていきたいと考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	日中を想定した避難訓練が多く、夜間想定回数は少ない。これから力を入れていきたい。又火災訓練だけではなく災害等の訓練も実施していきたい。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	避難訓練実施の時に避難経路の確認をしている。非常食・物品も倉庫に保管はいつかしてあるが、整理し、揃えていきたい。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	運営推進会議の中で避難訓練を実施したり、防災について話し合う時もある。地域の方も避難訓練に参加してくださっているが、近隣の他事業所とは話し合う機会を作れていない。	○	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	運営推進会議に防災訓練を兼ね合わせ家族・地域の方にも参加出来るように努めている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	運営推進会議の中で研修発表の機会を設けているが地域に向けての情報発信等は行えていない。	/	/	/	日頃より近隣の高齢者から寄せられる日常生活での困りごとや、介護保険サービスの利用について相談に乗っているが、地域全体へ情報を発信し、その輪が広がることに期待したい。市や地域包括支援センターとは良好な協力関係にあり、学生のボランティアなどの受け入れについても積極的である。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	運営推進会議に参加してくださっているためその際お話を聞いたり、外でお会いした時に一緒に話したりしている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	近隣の方に夏祭りの案内等のみで地域の方々が集えるような環境作りが出来ていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	介護実習・研修を夏に受け入れている。学生のボランティアの受け入れも電話等で受けている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	◎	就労に行かれている方はスポーツの応援に行ったり、自分の作品をバザーに出品にしている。	/	/	○	